

ビッグヒルズ「飯能：自然の回廊計画」による地域の活性化

独立行政法人都市再生機構 首都圏ニュータウン本部
事業部 緑環境整備チーム 折原夏志・筈谷元彦

1. はじめに



ビッグヒルズは東京都心から約45km、西武池袋線飯能駅より西方約2km東京都市圏の西武沿線のグリーンフロントに位置する都市再生機構施行による総面積約292haに及ぶ埼玉県飯能市における土地地区画整理事業3地区の総称で飯能南台地区(約105ha)飯能南台第二地区(約49ha)飯能大河原地区(約138ha)により構成されている。昭和57年の飯能南台地区の事業認可より平成25年の飯能大河原地区の事業完了までの約30年に及ぶ土地地区画整理事業を施行、全体で約83haの公園緑地が保全・整備されており、緑豊かな複合型の街として更なる飛躍が期待されている。

图 - 1 位置图

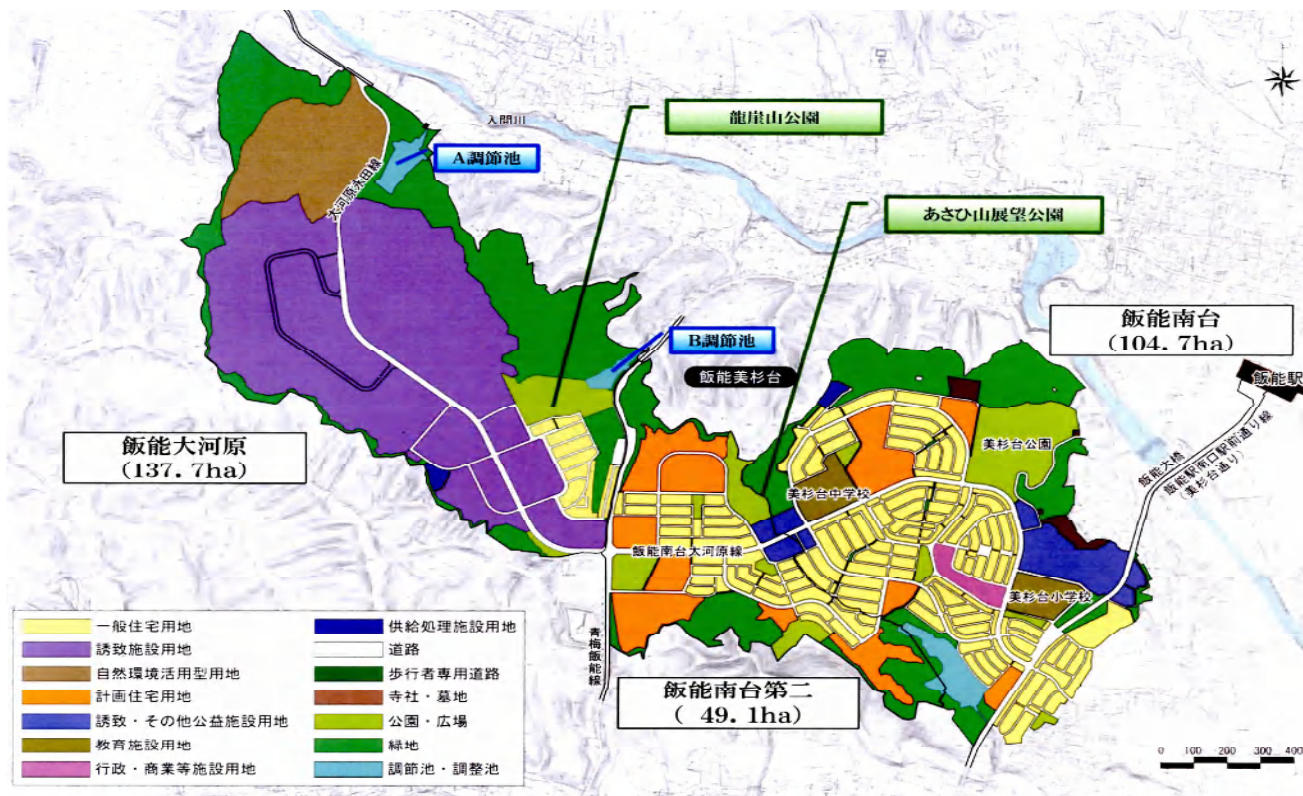


図 - 2 土地利用計画図

2. 「飯能：自然の回廊計画」による公園・緑地の保全、整備(まちの骨格の形成)

ビッグヒルズは北側の入間川、南側の成木川の 2 つの河川による溪谷の奥深い自然を感じさせる環境や、天覧山、多峯主山、赤根ヶ峠など、ハイキングコースの名所に囲まれており、それらの観光資源には既に年間 300 万人の人々が訪問していた。このような観光資源を有する周辺環境を受け、飯能市内、ビッグヒルズの更なる発展、活性化をはかるため、都市再生機構が「飯能：自然の回廊計画」を提案、飯能市及び学識経験者と協働で「レクリエーション空間のあるまちづくり研究会」を開催し、「飯能：自然の回廊計画」の実現にむけた議論が行われた。



図－3 「飯能：自然の回廊計画」

「飯能：自然の回廊計画」においては既に観光地として多くの人々が訪れている天覧山、多峯主山、飯能河原、吾妻峡とビッグヒルズ側に位置する朝日山、龍崖山を市民の山として保全すると共に自然散策路等で結び街の骨格空間を形成、ビッグヒルズ内に人々を誘導し街の活性化をはかることが提案されていた。朝日山については土地利用計画上近隣公園に位置付けられていたが、土地の有効利用の観点から山を切り平坦地を増やし運動施設等の配置に有利な計画とされていた。しかしながら良好な自然環境を有する山を保全すべく現況地形保全型の計画へと変更し、あさひ山展望公園とした。また、龍崖山については周辺部を緑地、龍崖山公園として保全した。それらの公園緑地を軸として地区内のオープンスペースネットワークを計画することにより、「飯能：自然の回廊計画」によるまちの骨格を構築、訪れる人々が飯能の森林文化に触れ、その豊かな自然や歴史・文化との交流を図りながら豊かな暮らしを営める公共空間の整備を実現した。

3. まちづくりの視点

(1) 地区内外からの景観に配慮したまちづくり

ビッグヒルズにおいては、地区周辺に残る丘陵地に囲まれた豊かな自然景観との調和を図るため、「飯能：自然の回廊計画」に基づき地区縁辺部に緑地を配置するとともに、近隣公園・街区公園・歩行者専用道路によるまちの骨格を配置することで、まちのあちこちから、まちの緑や周辺の緑豊かな山々の稜線が眺められ、緑に囲まれた暮らしを体感できる土地利用計画としている。

特に、飯能市民が愛する地区外の大観山からの眺望には十分に配慮し、造成法面を見せないよう、地区界周辺に緑地を計画的に残している。これにより、周辺現況林と連続し、一体となった豊かな緑の空間が保全され市街地に潤いある景観を提供している。また、美杉台公園の長大法面においては地区外からの景観に配慮してつつじなどの低木を主体とした法面緑化を行い、彩豊かな景観を形成している。



図－４ 大観山より保全された緑を望む



図－５ 紅葉の美しい街路樹

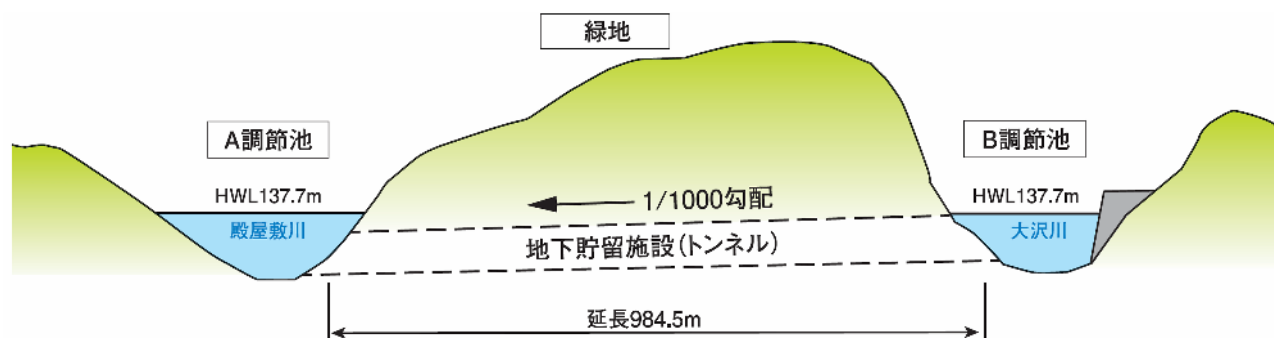
地区内に視点を戻せば、幹線道路、歩行者専用道路のネットワークに、四季の変化を感じることができるよう植栽を施しており、特に幹線道路のモミジバフウ、ヒガンザクラ、ケヤキは秋の紅葉、春の花、そして新緑が美しく、市内の名所となっている。

また、地区内では豊かな公共の緑環境を受け、各家庭のガーデニングや花育てのボランティアによる緑や花が溢れている。

(2) 現況緑地の保全に配慮した調節池の整備

飯能大河原地区においては、計画されていた２ヶ所の防災調節池を従来型の単独オープン貯留方式により整備した場合、地形上の問題から現況谷戸の斜面緑地の大規模掘削が避けられない状況にあり、その対策として２ヶ所の調節池を連結する地下貯留施設（延長約 1000mのトンネル）を整備した。

これにより２ヶ所の調節池の規模の縮小を実現し、自然環境、景観に配慮した整備を行う事により、現況緑地保全型防災調節池を実現している。



図－６ トンネル式地下貯留施設概念図

(3) 視座のあるまちづくり

まちづくりにおいて、ほどよい高さから自分たちの住む町を眺望できる場所(「視座」)が存在することが、そのまちへの愛着を生む一つの要素となるという知見がある。ビッグヒルズにおいては、開発以前からの山「朝日山」をその現況地形を優先しまちに張り出した形で残し、現況樹林と一体的に展望山として再生、あさひ山展望公園の展望広場から地区内を一望できるほか、飯能市街地や奥秩父山塊をはじめ、遠方は東京ス



図ー７ あさひ山展望公園からの大パノラマ

カイツリーや富士山など、約270度に渡る大パノラマを見渡せるため、まちの求心的なシンボルとなり広く親しまれている。地区のもう一つのピークである龍崖山は周辺を保全し、龍崖山公園を入口とするハイキングコース(龍崖山コース)を整備、龍崖山山頂からの地区内及び飯能市内の眺望をより身近に楽しめるように整備を行った。このほかにも、ビックヒルズ内にはゆうひ山公園、美杉台公園等に見晴良好なビューポイントが設定されており、視座のあるまちづくりを実現している。

4. ハイキングコースの整備と地域の活性化

(1) ハイキングコースの整備

ビッグヒルズの公園緑地(約83ha)の多くは地区の外周部分に保全されているため、その公園緑地内に現況樹林を生かした自然散策路を地区の外周を巡るルートとして整備し、地区内外のハイキングコースとのネットワーク化を実現した。

飯能南台、飯能南台第二地区においては、美杉台公園、あさひ山展望公園、ゆうひ山公園とそれに繋がる緑地内に自然散策路を整備、地区内を巡る「あさひ山・ゆうひ山コース」、飯能市市街地に展開する「飯能河原遊歩道・あさひ山展望公園コース」、地区北側へ広がる「美杉台・大河原コース」を設定、飯能大河原地区



図ー８ 整備されたハイキングコース

では外周部に保全した緑地内に地区外の「赤根ヶ峠コース」等とも接続する「あかね尾根道コース」、龍崖山公園を起点とし龍崖山山頂に至る「龍崖山コース」を整備した。これらにより、土地区画整理事業を完了した平成25年にはビッグヒルズ地区内外のハイキングコースがネットワークし、「飯能：自然の回廊計画」が実現、このハイキングコースは、地区内の案内板に掲示するほか、ハイキングマップを作成し、地元はもとより遠方からのハイカー含め広く市民に公開している。

(2) ハイキングイベント等の開催

平成25年3月24日、ビッグヒルズ最後の整備となった近隣公園(龍崖山公園)の開園式典を飯能市、都市機構の共催により開催した。龍崖山公園は新たに整備したハイキングコース(龍崖山コース)の入口となっ

ており、当日は新たなハイキングコースのお披露目となるハイキングイベントを同時に開催、合わせて 500 名以上の市民、ハイカー等が参加した。また、平成 25 年 3 月 31 日には今回整備を行ったハイキングコースを活用した「奥武蔵レクロゲイニング 2013」というイベントが開催され、多くの市民がビッグヒルズに訪れた。



図－9 ハイキングコース案内図

飯能市は、「健康づくり・介護予防の推進」に注力しており、「目指せ、ウォーキング人口 3 万人！」をスローガンにウォーキング人口（1 日 30 分以上のウォーキングを週 3 回以上行っている人）の増加を目指していることから、「飯能新緑ツーデーマーチ」をはじめ多くのハイキング、ウォーキングイベントが年間をとおして行われ、今回整備、設定したハイキングコースも活用されており、今後も地域の活性化、健康の増進に寄与するものと思われる。



図－10 レクロゲイニングのスタート



図－11 ハイキングイベントの開催

(3) 市民による管理と地域の活性化

ビッグヒルズの公園緑地の保全、整備は飯能市、都市再生機構が行ったが、飯能市では、市民による公共施設の維持管理、イベントの企画等が積極的に行われており、飯能南台、飯能南台第二地区においては平成 12 年より活動を開始した「加治・美杉台まちづくり推進委員会」が、地区内にハイキングコース（「大河原・美杉台コース」「あさひ山・ゆうひ山コース」）を設定、その一部を整備しウォーキングマップを作成、維持管理を継続すると共にハイキングイベントの企画等を行っている。また、飯能大河原地区では、龍崖山公園を起点とし龍崖山山頂に至る龍崖山コースにおいて、地元住民の有志による、コース内への備品、案内看板の設置等が行われており、今後もこれらの取り組みが継続されると共に、街の熟成にともなって更なる維持管理、活用の取り組みの実施が期待される。

5. 実現に向けたポイント

ビッグヒルズは約 30 年に及ぶ土地区画整理事業を完了、豊かな緑環境を保全しつつ整備された基盤施設のもと、先行して完了した飯能南台地区においては、豊かな街並みが形成されると共に、市民による緑の管理が積極的に開始されている。飯能南台第二地区、飯能大河原地区においても、住宅、企業施設の建設が順調に行われており、当初の開発目標「住む、働く、学ぶ、遊ぶ」の複合多機能型の都市開発を周辺環境への配慮の上で実現した。

長期にわたる事業において、このようなまちづくりを可能とした計画、整備の概要は前述の通りであるが、整理すると以下のポイントに絞ることが出来る。

(1) 「飯能：自然の回廊計画」による、まちの骨格の構築

「飯能：自然の回廊計画」により、朝日山、龍崖山が保全され、天覧山、多峯主山を含むネットワーク計画が実現されたことにより、ビッグヒルズのみどりの骨格が構築された。

(2) 地区内外における景観に配慮したまちづくり

天覧山、多峯主山等地区外からの景観に配慮し地区外周部に緑地を配し、既存の緑を保全する土地利用計画としたことにより、良好な景観の保全を実現した。

(3) ハイキングコースネットワークと視座のあるまちづくり

地元まちづくり推進委員会との共働により地区内のハイキングコースのコース設定、整備を行うと共に地区外のハイキングコースとの連絡を調整しハイキングマップを作成、地域の活性化に寄与した。

また、地区内を俯瞰できる視座と呼べる景観ポイントを設定、これにより、さらにまちへの愛着が深まるものと思われる。

6. おわりに

ビッグヒルズにおいては地元市民、飯能市をはじめ、多くの方々の協力のもと、既存の自然環境を生かした「複合多機能型のまち」を実現することができ、現在、地区内のハイキングコース、公園には平日、祝祭日を問わず地元市民、ハイカーなど多くの人々が訪れている。

今後はさらなるまちの熟成と共に「飯能：自然の回廊計画」によって実現した豊かな緑環境とハイキングコースネットワークを媒体とし、更なる地域の活性化が実現することを期待します。

【参考文献】「日本の景観」（樋口忠彦著/筑摩書房/1993）